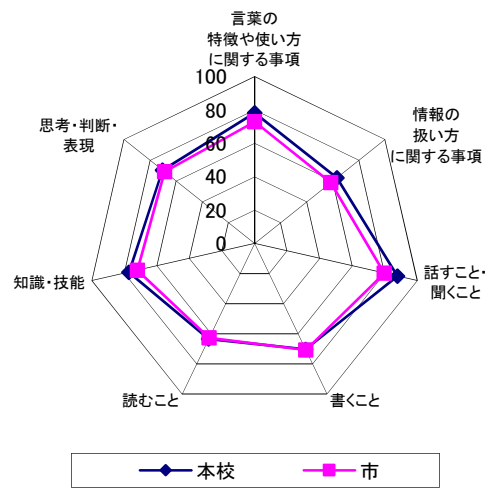


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.3	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	63.2	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	87.7	79.8	75.9
	書くこと	70.3	70.7	71.7
	読むこと	63.4	62.8	62.5
観点別	知識・技能	77.2	72.0	74.4
	思考・判断・表現	70.6	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

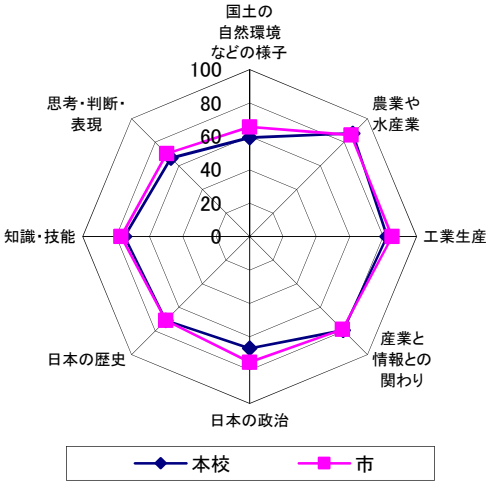
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・校内正答率は、市より5.3ポイント高い。 ○漢字の「圧縮」の読みの校内正答率は94.1ポイントで市より9.2ポイント高く、「貿易」の書きは、79.4ポイントで市より16.4ポイント高い。 ●「敬語について理解し、正しく使っている」の校内正答率は23.5ポイントで、市の平均と比較して14.5ポイント低い。	・漢字を読む・書くの学習については、今後も漢字ドリル等で繰り返し学習するよう指導し、小テストや漢字検定を実施することで定着を図る。 ・熟語の意味や構成だけでなく、敬語の使い方についてもプリント等を使って繰り返し学習する機会を設け、繰り返し指導することで定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	・校内正答率は、市より4.7ポイント高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書いている」の校内正答率は、63.2ポイントで市より4.7ポイント高い。また、無回答の児童は、8.8ポイントで市より7.3ポイント低く、記述問題を自力で解決しようという意欲が高い。	・目的に合わせて情報を収集し、資料を関連付けながら読み取る活動を行ったり、読み取ったことをもとに考えを深めたりする活動を行ったりすることで、思考力を高めていく。 ・朝の学習や家庭学習等を利用し、目的に応じて簡単に文をまとめたり、指定された文字数で簡潔にまとめたりする力を身に付けていく。
話すこと・聞くこと	・校内正答率は、市より7.9ポイント高い。 ○「計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫を捉えている」の校内正答率は、91.2ポイントで市より14.5ポイント高い。 ○「話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えている」の校内正答率は、94.1ポイントで市より5.1ポイント高い。	・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えながら話し合いに参加することができるよう指導する。 ・話し合いの仕方や話し方、正しい参加の仕方を指導することで、主体的に話し合いができるよう指導する。
書くこと	・校内正答率は、市より0.4ポイント低い。 ○「報告する文章を書く」問題の校内正答率の平均は、72.8ポイントで市の平均より3.6ポイント高い。 ●「指定された長さで文章を書いている」の校内正答率は、61.8ポイントで市より5.4ポイント低い。 ●「賛成しない意見への反論を書いている」の校内正答率は、66.2ポイントで市より4.6ポイント低い。	・国語辞典を日頃から活用し、国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意図的に機会を作っていく。また、長さや複数の段落構成など与えられた条件の中で文章を書く活動を繰り返し、書く力の向上を図っていく。 ・相手に分かりやすく伝えるための表現や書き表し方を繰り返し指導し、進んで書こうとする意欲をもたせる。
読むこと	・校内正答率は、市より0.6ポイント高い。 ○「文章全体の構成を捉えている」の校内正答率は、94.1ポイントで市より10.2ポイント高い。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」の校内正答率は、23.5ポイントで市より11.1ポイント低い。 ●「文章の論の進め方を的確に捉えている」の校内正答率は、55.9ポイントで市より9.2ポイント低い。	・物語文の学習では、登場人物の相互関係や心情だけでなく、情景描写に着目しながら読む活動も意識的に取り入れていく。 ・説明文の学習では、語句や説明的な文章の表現を取り上げたり、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落構成を学ばせたりすることで、内容を的確に読み取る力を身に付けさせていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	59.4	65.7	67.0
	農業や水産業	87.5	86.1	77.5
	工業生産	82.4	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.4	78.6	69.6
	日本の政治	66.9	75.2	65.8
	日本の歴史	71.0	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.9	77.0	72.8
	思考・判断・表現	66.5	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

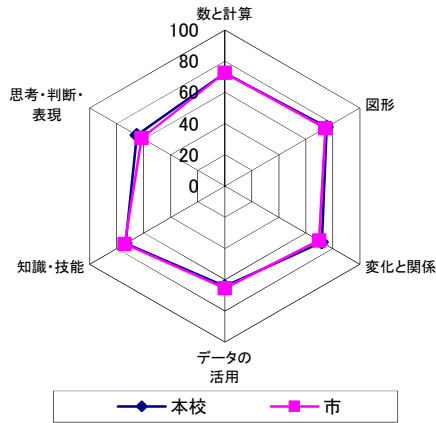
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・校内正答率は、市より6.3ポイント低い。 ○自然災害から命を守る取り組みについて答える問題の正答率は、市より3.8ポイント高い。 ●日本の周辺の海洋名について答える問題の正答率は、市より11.0ポイント低い。 ●森林を守るための間伐について答える問題の正答率は、市より20.0ポイント低い。	・地図帳や地球儀を活用し日本の周囲の国や海洋名について理解させたり、ワークシートを活用して国旗を覚えさせるなどして知識の定着を図る。 ・森林を守るための工夫や間伐の効果等を資料から読み取る活動を取り入れ、森林と自然環境が密接な関係にあることを理解させていきたい。
農業や水産業	・校内正答率は、市より1.4ポイント高い。 ○圃場整備の資料に着目して、米作りの生産効率について考え、表現する問題の正答率は、市より3.2ポイント高い。 ●米づくりの作業の理解をもとに資料から読み取る問題の正答率は、市より0.2ポイント低い。	・資料を読み取ったり資料を基に考察したりする力を育てるために、資料から読み取れることを話し合ったり、資料を基に自分の考えを説明したりまとめたりする活動を積極的に取り入れる。
工業生産	・校内正答率は、市より3.0ポイント低い。 ●電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンメーカーと比較して表現する問題の正答率は、市より1.1ポイント低い。	・資料から情報を読み取り、整理し、必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取れることを話し合ったり説明し合ったりする活動を取り入れる。
産業と情報との関わり	・校内正答率は、市より0.8ポイント高い。 ○放送、新聞などに着目して情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断する問題の正答率は、市の平均より10.8ポイント高い。	・身近なマスメディアの特徴や情報ネットワークの利便性について、日常的に機会を捉えて具体的な場面で説明するとともに、情報化社会における正しい情報の受け取り方等について今後も指導していく。
日本の政治	・校内正答率は、市より8.3ポイント低い。 ●三審制に着目して、国民の人権を守るための裁判のしくみについて捉え、判断する問題の正答率は、市の平均より11.9ポイント低い。	・資料から裁判所の役割やしくみについての情報を読み取り、必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取ったことを話し合う活動を取り入れる。
日本の歴史	・校内正答率は、市より0.1ポイント低い。 ○聖武天皇の政治について答える問題の正答率は、市より、8.1ポイント高い。 ○現在の和室の様子に着目して、室町文化の特徴について捉え、表現する問題の正答率は、市の平均より10.2ポイント高い。 ●弥生時代の人々のくらしに着目して、米づくりが広まったことについて考え、判断する問題の平均正答率は市の平均より20.3ポイント低い。	・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう、時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを、年表や図表、新聞などにまとめる活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.5	72.6	71.6
	図形	75.4	74.4	72.0
	変化と関係	71.8	69.8	62.6
	データの活用	64.2	65.5	59.1
観点別	知識・技能	73.4	74.1	68.9
	思考・判断・表現	65.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

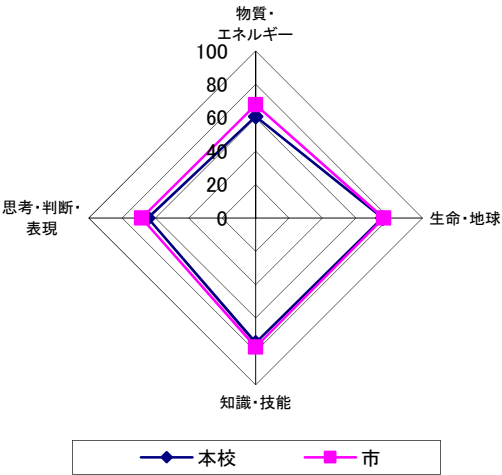
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市とほぼ同じである。 ○分数の計算では、正答率が市より約20～6ポイントほど高く、基礎的な計算の力が身に付いている。 ●分数の除法の文章問題にあった図や式を選ぶ問題では、市より正答率が約29～11ポイント低い。 ●2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題は、市より正答率が7.7ポイント低い。	・基礎的な計算の力は定着しつつある。今後も宿題や朝の学習を活用し継続的に指導していく。また、小数や分数を含むかけ算やわり算の計算など、発展的な問題を解く力も身に付けていけるよう指導の充実を図る。 ・言葉や数、式、図などの相互の関連を理解し、それらを用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明することができる力を養うために、普段から探究的に説明し合う学習環境作りを意識的に設ける。
図形	・平均正答率は市より1.0ポイント高い。 ○合同な三角形の作図の問題では、市より11.2ポイント高い。 ●三角柱の展開図から、見取り図の辺の長さを読み取る問題では、市より10.5ポイント低い。 ●正八角形の作図方法から、円の中心のまわりにできる角の大きさと、正八角形の1つの内角を求める問題では、市より3.6ポイント高いが、校内正答率は47.1ポイントと低い。	・展開図と見取り図の対応する辺や角などのより深い理解ができるようICT機器や模型など視覚的な支援を用いて指導の充実を図る。 ・正多角形の性質や内角の求め方などの定着を図るために、ICT機器など支援方法の充実を図る。
変化と関係	○平均正答率は、市より2ポイント高い。 ○道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題では、市より9.7ポイント高く、校内正答率が94.1ポイントと時速の求め方が身に付いている。 ●値に0がある分離量の平均を求める問題や集団のデータの平均値を求める問題では、市の正答率より約10～8ポイント低い。	・表や式、グラフなどを用いて、伴って変わる2つの数量の変化や対応の規則性を読み取ったり表したりすることで、関数的な見方、考え方を深めるよう指導する。また、関数の考えのよさに気づかせ、学習や日常生活に生かしていこうとする態度を育てる。 ・なぜそのような関係式になるのか根拠を明らかにして説明する場面を意識的に設ける。
データの活用	●平均正答率は、市より1.3ポイントとやや低い。 ○折れ線グラフや棒グラフの読み取りは市の正答率より約3ポイントほど高い。 ●最頻値についての理解や集団のデータの平均値を求める問題では市より約6～8ポイント低い。	・習熟度学習や少人数指導を有効に活用し、つまづきの原因を見極め、個別指導の充実を図る。 ・データの活用について、数学的に表現・処理したことを振り返り、学習のよさに気付かせる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.8	67.8	64.1
	生命・地球	76.1	76.7	78.3
観点別	知識・技能	74.8	77.4	78.3
	思考・判断・表現	64.5	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●校内正答率は、60.8%で市より7ポイント低い。 ○「物のとけ方」の水溶液の重さを推測する設問で、市よりも6.1ポイント高い。 ●「物の燃え方」については、すべての設問で市よりも0.6ポイント～20.2ポイント低く、課題が見られる。 ●「ふりこのきまり」については、すべての設問で市よりも3.1ポイント～21.9ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察など、体験を通じた学習を今後も取り入れていきたい。また、実験の結果から、予想を検証して説明する活動も今後より一層取り入れていく。 ・「物の燃え方」については、物の燃え方と空気の働きについて、実験から分かったことを自分の言葉でまとめる場面を取り入れたり、空気の成分について丁寧に確認したりし、理解の定着を図る。
生命・地球	○校内正答率は、「生物とかんきょう」については、すべての設問で市より8.7～11ポイント高い。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」の消化に関するすべての設問で、市のより1.2～2.8ポイント高い。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の血液と呼吸に関するすべての設問で、市より4.4～10.5ポイント低く、課題が見られる。	・「動物のからだのつくりとはたらき」において、名称に関する知識・理解を高めるためワークシートなどを活用する。また、映像や図などを用いて事柄の説明をするなどして学習の定着を図る。 ・観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けると共に、繰り返しワークシートを活用するなどして、科学的な思考による問題解決の力を高めていく必要がある。

宇都宮市立上河内中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成」の研究の充実	各教科において体験的、実験的な学習活動の場を設定し、話し合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるような指導の工夫を図っている。 授業の中で、「上央小 授業スタンダード」や「学習のきまり」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりを目指した授業を展開し、児童の学習の定着を図っている。 特に、板書計画を立て、授業のねらい、まとめを明確にするとともに、振り返りの時間を確保し、学習内容がすっきりと習得できるよう充実を図っている。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の3～6年生の平均の肯定割合は、93.2%と昨年度より4ポイント上がり良好であった。しかし、「グループなどでの話し合いに進んで参加している」では、1～6年生の平均の肯定割合が80.5%と一約5ポイントであった。今年度は、話し合いの場の設定が難しかったことが影響し、充実を図れなかった。 「授業で習ったことをノートにまとめている」の1～6年生の平均の肯定割合も約78%で昨年に比べ、一約6ポイントであった。今年度は、授業時間の確保や授業を進めるための工夫が先行したことの結果と考えられる。
基礎・基本の確実な習得	宿題・家庭学習への取組について職員間で共通理解して指導にあたり、基礎・基本的な内容を意図的に繰り返し学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。 本年度から漢字、計算検定を新しく設定し、学習への意欲向上を図った。また、計画的に取り組めるように「家庭学習チャレンジ週間」を実施した。	「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。」は1～6年生の平均が約74%であった。「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」は、肯定割合が約96%でどの学年も高く、授業が学ぶ意欲へつながっていることがうかがえる。 「自分で計画的を立てて学習している。」は約64%と低く、自主的に計画的を立てて学習に取り組むことに課題がある。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎・基本の確実な習得に向けた取り組みの継続により、国語は市の平均を上回り、算数、社会、理科は市の平均とほぼ同じであった。今後も、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、課題解決学習による思考力・判断力・表現力の育成に取り組んでいきたい。グループや学級全体で練り合いながら考えを深めたり、思考の過程を文章化するような機会を設定したりなどの研究を進め、ノートの使用を充実させた授業などにも取り組んでいきたい。

家庭学習習慣化の定着が見られ、7～8割の児童が学年の目標学習時間学習することができており、宿題については9割以上の児童が進んで取り組むことができるようになっている。自ら計画を立てて学習することも少しずつできる児童が増えているので、今後も指導を継続していきたい。